

令和3年度 宗像市男女共同参画推進センター運営委員会 議事録

日時 令和3年7月9日(金)
10時00分～11時50分
場所 メイトム宗像 103会議室

運営委員会委員(50音順)

出欠	名前	出欠	名前	出欠	名前	出欠	名前
○	荒武 勢津子 委員	○	今西 啓之 委員	○	木村 直喜 委員	○	佐矢野 洋子 委員
○	塩川 裕子 委員	○	三好 康之 委員	○	森 結花 委員		

事務局:(市男女共同参画推進課:田村・吉武・赤星、男女共同参画推進センター:立石、近藤)

1 はじめのあいさつ

男女共同参画推進課長 田村泰貴

2 委嘱状交付

3 委員自己紹介

4 会長・副会長選出

◆会長: 佐矢野 委員

◆副会長: 今西 委員

○委員、●事務局

5 議事録署名人選出

議事録署名人: 森 委員

6 議事

(1) 令和2年度実施事業の報告

●(市)男女共同参画推進センターは市民活動交流館条例第16条により事業を運営している。同センターでは、広く市民に向けた啓発活動を行っている。資料1 資料2

●(市)令和2年度事業の詳細については、センター担当者から説明する。

●(センター)センターでは、男女共同参画社会の実現と女性活躍推進に向け、「啓発事業」「チャレンジ支援事業」「相談事業」を中心に事業を実施した。また、情報コーナーの図書・雑誌・DVDの貸し出し管理及び結工房の管理も行った。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による2度の緊急事態宣言発出に伴い、当初の計画通りに事業を進めることができず、延期や中止せざるを得ない状況もあったが、感染拡大防止策を講じて可能な限り事業を実施した(事業の詳細は、資料により説明)。令和2年度の実績は、実施した講座の合計が21講座計46回、参加者はのべ786人である。情報コーナーでは、図書675冊、DVD11本の貸し出しがあった。相談事業では、法律相談(月1回)67人、こころ生き方の相談(月～金)のべ468人、女性支援相談(月～金)のべ860人、結工房は、のべ2,924人の利用があった。コロナ禍で来館者数の減少やサークル活動の自粛もありこのような実績になった。

【質疑等】

○講座等のオンラインでの開催はあったか

●(セ)令和2年度の開催はない。機材などが整っておらず実施できていない。市の設備を利用して職員研修や会議などには参加している。市民向けの講座については今後検討、準備していく。

●(市)昨年度も委員よりオンラインの活用の提案があったが、市においても機材等の整備を進めている状況であり、実施には至っていない。今後、環境を整備し、取り組んでいく。

○オンラインになると、家で視聴しやすい。録画配信となるともっと視聴しやすい。

○時間がない人、来るのが難しい人、子育て中の方は、センターまで来るのが難しい。録画配信の場合は、期間限定で視聴できるのがいい。

●(市)アフターコロナを見据え、講座や講演会の実施は、人を集めたリアルでの事業実施とオンラインを併用した形が求められるようになると思われる。職員に配信の知識や技術が必要になるので、県が実施する研修等を活用するなどして準備している状況である。次年度以降の実施に向け準備を進めている。

○むなかた館では、講演などオンラインで視聴する事ができる。参考にしてほしい。

●(市)情報共有していく。

○オンラインには、講演会のような参加型のものに加え、ワークショップのように双方向性を持つものもある。これにより、例えば、子育て中の人など外出が制限され、閉じた関係性の中でストレスを溜めている場合にも他者との関係性を作ることができる。ネット環境など受講者の状況も様々で、アプローチの仕方も多様化している。工夫して進めてほしい。

●(市)オンライン活用により事業の広がりを広げていくことができると考えている。まずは、やってみるということで、11月に開催予定の女性活躍推進講演会では、会場に人を集めるリアルとオンラインの併用での開催に向けて準備を進めている。今後、オンラインを活用した事業の実施を広げていく。

●(セ)子育て中の参加者は、託児サービスを利用し対面で講座を受講することで、自分の時間を持つことができ、リフレッシュにもなっている。実際、チャレンジ支援講座では、今は働けないけれど、子育てをしながら資格を取得し、就労の準備をしている人が多い。また、年配の方など、オンライン受講が難しい人もいるので、今までの対面での講座を実施しながら、合わせて、オンラインの活用についても検討していきたい。

○コミュニティの中で赤間と自由ヶ丘以外のコミュニティにも講座を開いてほしい。もっと働きかけを行ってほしい。

●(市)赤間と自由ヶ丘は、組織の中に部会があるため、事業が実施できているという面はある。現在、コミュニティはその業務の見直しを行っており、引き続き、他のコミュニティへも働きかけを行っていく。

(2) 令和3年度事業計画

事業進捗内容について

●(セ)緊急事態宣言期間中(5/12~6/20)に予定していた4つの講座は開催を延期した。また、男女共同参画週間(6/23~29)の街頭啓発も中止した。男女共同参画週間講演会(6/26)については例年より募集人数を減らす等感染防止に配慮して開催した。多数の参加申し込みがあり、抽選を行った。当日の参加者は98名(女性72名男性26名)で終了後アンケートでも好評を得ている。令和3年度は35講座(全64回)の開催を予定している(事業の詳細は、資料により説明)。

【質疑等】

○チャレンジ支援講座の講座内容は、毎年変わるのか。

●(セ)パソコン講座は、毎年必ず実施している。医療事務、調剤薬局事務、ファイナンシャル・プランナー技能などの講座は、毎年ではなく、ローテーションを組み講座を実施している。チャレンジ支援講座にかかる費用は、受講生が教材費や受講料、検定料などを実費負担し、センターは会場や託児等の講座開講の支援を行っている。利用者が、少ない経費で有益な講座を準備するよう努めている。

○男女共同参画の視点から考えたとき、女性が就く仕事のアシスタント業務へ偏っている、また、女性が仕事をしたいとき資格に頼りがちであるという問題を抱えていると思う。しかし、現実には、直接就労には結びつかない資格も少なくない、そういった現実を誰が教えるのか。例えば、医療事務でいえば、有資格者と限定していない求人も多く、資格より受付や電話対応など一般事務的な資質により採用が決まることも多いと聞く。センターには、そういう現実も含め、講座をやってほしい。受講者には、資格を持っていることがどの程度の強みとなりうるのかを知ったうえで、限られた時間とお金を使ってほしい。必ずしも就労や安定した収入に結びつく資格ばかりではない、そういった現実も含めて受講者に説明することが必要と考える。中立の立場で伝えることができる就労支援やキャリアコンサルタントの方を活用するなどして、エンパワーメントの中できちんと説明して行ってほしい。トータルな就

労支援の中に位置づけてほしい。

●(市)女性が社会に関わるきっかけづくりとしてチャレンジ支援事業を行っているが、ご指摘の内容は本質的などとても大切なことと捉えている。今後、事業にどう取り入れていくかを考えていく。

●(市)昨年実施したファイナンシャル・プランナーの講座は、資格取得と合わせて、世の中の仕組みを学んでいくということに繋がるものであったと思っている。そういった講座を通して社会の本質を知ってもらうことにもなる。どのような形で、事業に取り入れていくかを考えていく必要がある。

●(センター)R2「就業支援プチ講座」では、資格取得講座の受講者を対象に、就職の現状や心がまえといった簡単な内容をセミナーに組み入れている。エンパワーメントの分野の女性活躍推進の事業の中でも取り入れていく。

○女性活躍推進のところで「仕事選び編」とあるが、どういう内容か。

●(セ)自分に何ができるのか、何がしたいのかを見つけていく作業をする講座である。

○そこでどの就きたい人が多い仕事をもとに、エクセルや医療事務といったチャレンジ支援講座のテーマを選んでいるのか。

●(セ)講座の詳細は未定であるが、仕事を選ぶ上で、自分のキャリアを振り返り、自分にあった働き方を考えることをテーマにした講座である。

○「仕事選び」で興味がある人が多い分野の仕事で、チャレンジ支援講座を構成してはどうか。エクセル3級を持っていれば即戦力になるというわけではない。もっと実務で使える基本的な内容をとり入れた講座の方がよいのではないか。

●(セ)現状では、即戦力となるスキルを身につけるといより、現在、仕事をしていない人のきっかけになる講座を想定している。まずは何かを身につけたい方の技術編としてのチャレンジ支援講座であり、啓発の講座では、ということがしたいのか迷っている方の気持ちの整理することを支援するような講座になっている。

○パソコン講座は完全初心者向けもあっていいのでは、いろいろ実施していけば良い。

○センターの講座は幅広い層を対象にした講座。それ以上のスキルを望む場合は自分で資格を取るほうが身につくと思う。

○エクセル3級取得したら、仕事ができると勘違いするのではないか。ワードでは、こんな事が必要とか教えて欲しい。就職しても本人が困るのではないかと思うので、支援してほしい。

●(セ)エクセルは毎年。エクセル2級やワードなど毎年できないが、繰り返し継続して実施している。

●(市)チャレンジ講座とセミナーの講座をセットにする方法もある。基本的な部分を教えた上で資格取得の講座を実施する等の方法を検討する必要があると思う。

○普段パソコンに触れる機会の少ない人、職場を離れるとスマホのみという人が増えているので、(キーボードがある)パソコンに触れる機会の提供は必要かもしれない。

●(セ)基本的にセンターのパソコン講座はきっかけづくり、その後のスキルアップは市民学習ネットワーク等の事業も活用してほしい。

○“最初の一步”の講座としてネーミングを検討すると、どのレベルの講座かわかりやすく、利用しやすいと思う。

(3) 今後の男女共同参画推進センターの運営について

●(市)現在、センターの運営管理は、男女共同参画ゆいネット宗像に市民サービス協働化提案制度に基づく業務委託により行っている。市民サービス協働化提案制度は1期が最長4年と決められており、今年度は、2期の最終年度になっている。来年度以降のセンターの運営について、講座の内容については、本日いろいろなご意見をいただいた。ここで、他に情報コーナーや結工房の運営についてもご意見をいただき、今後のセンター運営に反映していきたい。

【質疑等】

○事業内容としては、様々な事業をとりいれているので良いが、もっと PR してほしい。メイトムのホームページが活用されていないように感じる。

●(セ)メイトムのホームページには、現在、講座の申込みや QR コードなどを掲載している。今後、講

座の実施内容など事業報告の掲載も検討していく。来年度以降、協議しながらホームページを活用していきたい。

○情報コーナーについては、いろいろな書籍があり、もっと PR する必要がある。講座についても、1 回でも受講した人には良さを知ってもらえ、リピーターになってもらえている。いままで受講したことがない人へのアピールが必要だと思う。

○男女共同参画週間講演会の開催が市からセンターの業務へと変更になり、変化があったか。

●(市)講演会場がメイトムなので、メイトムとの連携がしやすい。参加者が増えてきているので啓発の効果も大きいと考えている。委託先の男女共同参画ゆいネット宗像は、専門性が高く、情報収集力も高いので効果的な啓発に繋がっていると考えている。

○ジェンダー格差の改善が先進諸国に比べ日本は遅れている。特に経済分野に関して一向に進んでいない。ここに目を向け、取り組んでほしい。その取り組みが不足している。例えば、子育て支援や女性活躍支援をやっている、宗像市に本社をおいている会社、団体が実際どうしているのか検証してほしい。福岡市の方では、もう取り組んでいる。どう取り組んでいるのか。

●(市)現状では、事業所への取り組めていない。他の自治体にも確認しながら、検討していく。働く側への啓発では十分でなく、事業者側の

○市民へのアプローチだけになっている、企業への働きかけが必要である。

●昨年度から、企業へ訪問する予定だったが、コロナの為中止になった。今年度は、検討していく。

○事業主と従業員、両方へ働きかけをしてほしい。

○企業側のメリットが必要ではないか。市の入札制度で子ども支援にポイントがつく制度がある。男女共同参画に力をいれている企業にはポイントがつくなど、企業側にもメリットがあればよいのではないか。男女共同参画に力いている看板とか、簡単なものでいい。お願いと一緒にそういうものがあるとよい。

●(市)入札については、総合評価方式等の入札制度が進んでいかないと、企業の取り組みを入札に反映させていくのは厳しい。

○入札は一例である。取り組みを評価されることによって、市民への企業イメージがよくなるというメリットがある。

●(市)今後、検討していく。

○企業へもっとはたらきかけてほしい。女性の社会進出により、男性の家事参画も必要になってきている。家事育児のための男性の休暇取得も企業の中で進んでいかないといけない。社会環境の整備への声掛けをしてほしい。

●(市)企業向けのワークライフバランスの啓発など、市民だけではなく、企業への働きかけも検討し、取り組んでいく。

議事録署名人 宗像市男女共同参画推進懇話会 委員

森 結花

